







目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更(※)	理由・根拠
<p>① ライフステージにおける切れ目のない支援</p> <p>② 関係機関の情報共有、課題整理、連携</p> <p>③ サービス事業者等の質の向上</p> <p>※</p>	<p>◇こども連絡会全体会</p>	<p>P. 40 P. 41</p>	<p>①6月16日開催 ・関係機関と情報共有、意見交換を行った。 ・事業所部会での課題について話し合いを行った。 【参加者 20名】 ②2月9日開催</p>	<p>①・各関係機関の取り組みや相談状況等の報告を行うことで、近況を互いに確認できた。 ・事業所部会から提示された課題（「放課後等デイサービスが学校に迎えに行く際の困り事」「相談員がいないケースの困り事」）を話し合い、学校と関係機関が相互の状況を知る場となった。この2点の課題を事業所部会で検討することとした。</p>	<p>終了 ・ 継続 → 同じ ・ 変更</p>	

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更(※)	理由・根拠
※続き	◇事業所部会	P. 40 P. 41	<p>①7月18日開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 各事業所の受け入れ状況や近況報告を行った。 下記2点について、グループで話し合った。「放課後等デイサービスが学校に迎えに行く際の困り事」「相談員がいないケースの困り事」 <p>【参加者 18名】</p> <p>②10月24日開催</p> <p>「支援が難しい児童への関わり方、外国籍の保護者への関わり方」についての事例検討を行った。</p> <p>【参加者 24名】</p>	<p>①・事業所の現状を知る機会になった。</p> <ul style="list-style-type: none"> 話し合ったことで、課題に対し様々なアイデアを出すことができた。(送迎では名札をつけることの実施、セルフプランでも他事業所との連携が必要) <p>②新しい視点に気づけるよう、どこまでの情報が必要かを確認できた。外国籍の家族へのフォローの仕方(ママ会の開催や、知人に繋げている等、信頼関係を築けるよう意識的にコミュニケーションを増やす等の工夫)を確認することができた。</p>	<p>終了</p> <p style="text-align: center;"> 継続 → 変更 </p> <p style="text-align: center;">同じ</p>	<p>①事業所同士の情報共有、近況報告は今後も継続していく。</p> <p>それぞれの取り組みを知り自社にないものを取り入れていくことにより、サービスの質の向上に繋がっていく。</p> <p>②多角的な視点をもてるように、また、横の連携がスムーズにいくよう、来年度は相談支援専門員にも参加を呼びかけ、顔の見える関係づくりもねらいとして、事例検討会を継続していく。また、児童への関わり方や家族への対応等を事業所内で抱え込まず、他事業所とも一緒に考えていき、各事業所の資質向上に繋がっていく。</p>

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更(※)	理由・根拠
※続き		P. 40 P. 41	③1月23日開催 管理的職員意見交換会「あさひ学園、児童発達支援センター、委託相談支援事業所の役割を学ぶ」 【参加者 25名】	③それぞれの役割を知り、今後はイメージをもって関りを深めることができるとの声があった。また、切れ目のない支援のために必要な担当者会議を開く上で、特にセルフプランの方へのフォローの仕組みを確認することができた。他にも相談支援事業所との連携の方法や、取り組み等を知ることができ、このような場は、管理的職員だけでなく、幅広い職員にも必要との意見があった。	<p>終了</p>	③スムーズな連携を図るため、他機関との連携方法を互いに知る機会を得ることで、新たな関りができるように、意見交換を行う必要がある。 以前より課題に出ている「支援が難しい児童への関わり方について」を新しい視点で関わられるよう、外部講師を招いて学べる研修を開催する。

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更(※)	理由・根拠
	◇事業所見学会		○8月21日～8月25日 ・受け入れ事業所【21事業所】 【参加延人数105名】 ・対象：保健センター、学校、保育園、子育て世代 包括支援センター、春日井児童相談センター	・児童発達支援事業所や放課後等デイサービスで取り組まれている療育について、また実際に利用している子ども達の様子を見学する機会は大変有意義であった。合わせて学校での様子も聞くことができ、互いに顔の見える関係作りのきっかけとなった。	終了 ・ 継続 → 同じ変更	・各事業所の特色や違い等がわかり、具体的にイメージすることができた。 ・よりスムーズに密な連携が図れるよう、今後も参加しやすく受け入れし易い実施時期や期間、頻度等を検討しながら継続していく必要がある。
※続き	◇はじめのいっぽ編集作成	P.40 P.41	◇はじめのいっぽ in komaki 制作委員会 ①6月22日開催【参加者13名】 ②9月8日開催【参加者13名】 ③1月11日開催【参加者13名】	①全員で修正箇所の洗い出しを行い、内容別に担当者を決め作業工程の確認を行った。 ②各担当から提示された修正内容の確認を行い、再度確認作業と修正を行った。加えて、医療的ケア児等に関連する掲載内容の検討も行った。 ③2校目の確認を行い、3月の完成に向けて進めている。	終了 ・ 継続 → 同じ変更	

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更 (※)	理由・根拠
	◇療育支援事業への協力 (案内の配布)		<p>◇5月12日開催 「支援の必要な子を育てている家庭への支援～親子に関わるスタッフに望むこと～」 【参加者 30名】 あさひ学園主催</p>	<p>支援の必要な子どもに関わる事業所等が集い、「親子療育の家」の紹介や支援者としての心構えを学ぶことができた。</p> <p>地域で、誰もが安心して暮らせるように、支援者の役どころを改めて確認できる機会になった。</p>	<p>終了・ → 同じ </p>	<p>事業所が支援方法等で悩む時に事業所内だけで解決しようとするのではなく、社会資源を知り活用したり、保護者にそれを提案したりすることも手段の一つであるため、支援の幅を拡げられるような学びの場は今後も継続して必要である。また、地域との連携を意識して事業展開できるような働きかけも継続して必要である。</p>
			<p>○7月13日開催 「支援の必要なお子さんの就学について～保護者向け説明会～」 【参加者 41名】 児童発達支援センターひろば主催</p>	<p>就学までの流れや困った時の相談先について知ることができた。先輩ママからのお話も聞くことができ、経験談から対応の仕方等を学ぶことができた。同じ境遇の方々と困り事や不安を共有し共感できたことは、とても心強いと多数声をいただいた。</p>	<p>終了・ → 同じ </p>	<p>事業所等を利用されていない場合は、就学までの情報が保護者の方により届きにくく、十分な準備ができないまま就学となる。そのため、早く広く情報を得られる機会を提供することは重要である。今後も、ライフステージ別にテーマを変更して開催されることが望まれている。(児童発達支援センター2か所を中心に内容を検討予定)</p>

目的	方法	頁	実施状況	評価	終了・継続・変更(※)	理由・根拠
※続き			◇12月5日開催 「重度自閉症児への 関わり方について (学童期)」 【参加者 22名】 児童発達支援セン ターひろば主催	自分の気持ちや思い を言葉にすることが 苦手な児童に対し て、アセスメントの 着目点や、支援方法 の工夫等、複数の事 業所で支援に繋がる アイデアを出すこと ができた。「今後の 支援の参考になっ た」、「もっと関係 者と一緒に事例検討 会を行いたい」とい う意見があった。	終了・ 	令和6年度は、幼児期の ケースで、保育園・幼稚園 と児童発達支援を並行で利 用している児童の事例検討 を他職種の関係機関の方々 と行っていく。
①障がいに関する理 解の促進	◇「支援が必要なお 子さんのためのガイ ドブック」の更新 (2月発行予定)	P. 32	◇2月末に、完成予 定で校正中		終了・継続 → 	

(※) 次年度も同じ内容で継続、または目的を変えず方法を変えるという意味で変更